

日進市の主要課題（案）

第 6 次総合計画の策定にあたり、社会情勢の変化や第 5 次総合計画の総括・検証などを踏まえた結果、本市が抱える主要課題（案）は次のとおりです。

1 地域全体で見守る、子どもの育ちと学びを支える仕組みづくり

◇子育て支援に係る取組の積極的な展開により、本市は現在、全国的にも珍しい“出生数が減らないまち”となっている。今後はより一層の保育サービス量の拡充、子育て支援施策の展開及び新たな教育システムに合わせた学校教育の推進が望まれる。

◇子育て支援に係る各種事業・制度の周知が不十分であるため、子育てしやすいまちとしての都市イメージを市内外に浸透させることが求められる。

◇子育て世帯において、地域組織への未加入や子供会加入率の低下など、地域社会とのつながりが希薄化する中、地域ぐるみで子育て世帯を温かく見守り、支援する体制づくりが求められる。

2 人生 100 年時代を見据えた、互いに支え合い助け合う地域共生社会の構築

◇高齢化が進む中、健康づくりや地域福祉、生涯学習・スポーツ、文化活動など様々な場面で、元気な高齢者が活躍できる環境づくりが求められる。

◇地域共生社会の実現や地域包括ケアシステムの深化・推進に向け、関係する各主体がそれぞれの役割を果たし、誰もが取り残されない、互いに支え合う地域社会の構築が望まれる。

3 安全・安心な暮らしを下支えするハード・ソフト両面からの取組の推進

◇南海トラフ巨大地震を始めとする様々な災害に備えた、防災インフラの整備・維持や関連情報の発信の多重化、公的機関の対応力の強化が求められる。

◇災害に備えた防災力・減災力、犯罪に備えた防犯力、交通安全に対する見守り力など、地域による共助が求められる中、地域力の減退が懸念されることから、市民一人ひとりの意識の向上と地域への参画が望まれる。

4 持続的な発展と都市の成熟を意識した都市構造の形成

◇本市においても、必ず到来する人口減少局面を見越した都市の形成が求められる。そのため、環境負荷の低減や自然環境の保全を意識しつつ、適切な規模での市街地整備を行う配慮が必要。

◇新たなまちづくりを進めるエリアにおいては、周辺環境との共存や付加価値の高い取組を検討することが望まれる。一方、これまでに土地区画整理事業などで整備された市街地では、住環境マネジメントによる街区単位での資産価値の維持・向上を図ることが求められる。

5 市民が安全で快適に市内外に気軽に移動できる環境の向上

◇市民意識調査では、公共交通の利便性や歩道・道路の環境に対する評価の満足度が軒並み低くなっており、解決すべき重要な課題である。

◇慢性的に渋滞している市内を通る幹線道路整備の推進、市内の補助幹線道路及び生活道路における円滑な交通と安全性の確保が求められる。

◇今後、高齢化に伴い、自家用車の運転が困難になる市民が増加することを見据え、路線バスやくるりんばすに加えそれらを補完する地域交通を含めた市内外への移動のあり方を検討することが求められる。

6 広域的な交通インパクトを活かした地域の経済・交流の活性化

◇リニア中央新幹線の開通や東名高速道路のスマートインターチェンジなど交通環境が変化することと関連し、産業用地の確保、次世代産業などの誘致、市内企業の操業環境向上、新たな起業の支援など、より一層の産業振興による税収と雇用の安定的な確保が求められる。

◇働き方改革や生涯現役社会の進行に合わせた市内農地の多様な活用のあり方検討及び道の駅の整備を契機とした 6 次産業化、市内での買い物環境の向上などが求められる。

◇周辺自治体における大型集客施設の整備や大規模イベントの開催などを契機に、市内における地域資源の発掘・磨き上げによる観光交流の拡大が望まれる。

7 楽しく暮らせる上質な都市としてのイメージ戦略の展開

◇ゆとりある生活環境が提供できる本市の特性を活かし、学びの機会の提供や文化に関する取組、自己実現につながる様々な市民活動など、成熟した文化的な都市ならではの、上質な暮らしが実現できるという都市イメージをブランディングして、積極的に発信することが求められる。

8 安定した行財政運営の継続と多様な連携体制の強化

◇財政状況がこれまで以上に厳しくなるなか、都市基盤や公共施設の老朽化に対応しつつ、AI や IoT など最新技術を導入することで、健全で積極的な行政運営を持続することが求められる。

◇価値観や生活様式の多様化、外国人市民の増加などが進むなか、ともに協力しながら暮らしやすい環境を整えることが求められる。

◇これまでの市民や民間事業者、大学等との協働に加え、企業との積極的な官民連携や周辺市町を含めた広域での行政対応の模索などあらゆる連携のあり方を検討することが望まれる。